

# 三翠化学会

（題字は福川先生）  
第56号  
平成18年8月15日 発行  
三翠化学会  
津市 栗真町屋町1577  
三重大学大学院生物資源学研究所内  
電話/津(059)232-1211  
振替/名古屋9-59345  
印刷/株式会社あるも  
TEL (052) 332-0861 大8長谷川 正一

## 平成18年度 三翠化学会

### 総会・懇親会開催

#### 古市幸生教授特別講演

残暑なお厳しいおり、会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、本年は三翠化学会

総会開催の年にあつてお

りますが、平成一三年の総

会でお決めいただきました

ように、今回は親会である

三翠化学会と合わせて化

学会の総会を開催させて

いただきます。

本会報の記事にもありま

すように、平成一八年三月

たり、一度先

古市幸生教授

が停年により

ご退職になら

れました。先

生は常日頃よ

り三翠化学会

に多大のご恩

力を賜ってお

**記**  
【日時】  
平成18年9月16日(土)  
12時30分～14時  
受付開始12時  
【場所】  
三重大学生物資源学部  
217番教室  
○古市幸生先生ご講演  
(13時～13時45分)  
○三翠会総会(14時～):  
大講義室  
○懇親会(16時～):  
三翠小ホール  
【会費】  
3,000円

ましたところ、ご快諾いた  
だきました。  
最終講義ではお話しした  
だけなかつた楽しいお話し  
がうかがえると聞きまして  
おりますので、どうぞご期  
待ください。  
三翠化学会会長 福田映

### 古市幸生教授最終講義

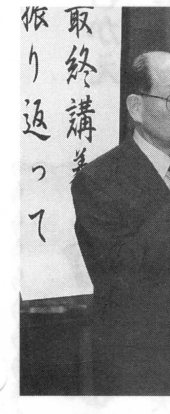
#### 三十七年にわたり教育・研究に精励

本年三月末日をもって退  
職された三重大学生物資源  
学部資源循環学科栄養機能  
工学教育研究分野・古市幸  
生教授の最終講義が、去る  
三月二〇日、生物資源学部  
大会議室にて行われまし  
た。会場は、学生、教職員、  
卒業生を含む多くの聴講者  
で埋め尽くされ、立ち席の  
方も数多く見られるほどの  
盛況ぶりでした。

先生は昭和四四年に三重  
大学大学院農学研究科を修  
了され、同年同大学農学部  
助手として採用された後  
平成七年には同大学生物資

源学部教授に昇任され、三  
十七年の永きにわたり、教  
育、研究に精励されてこ  
れました。講義の内容を簡  
単に触れますと、ポリビニ  
ルアルコールの水溶性指標  
物質としての利用に関する  
研究に始まり、健康の維持  
増進に利用する食用油脂の研  
究、各種食用キノコの機能  
性に関する研究、インゲン  
豆を中心とした植物種子に  
含まれる機能性タンパク質  
の研究などを中心に話さ  
れ、また企業との共同研究  
においては食品廃棄物とし  
て処理されている小豆煮汁

の栄養的機能性について  
触れられるなど、まさに三  
十七年間取り組んでこられ  
たほとんどすべてのことを  
紹介され、非常に興味深い  
お話しばかりでした。さら  
に、研究のお話とは別に、  
先生が若かりし頃の貴重な  
お写真や、出勤中にデジカ  
メで撮られた水鳥の写真等  
もお見せいただき、楽しい  
最終講義となりました。



取終講義 振り返って

### 支部たより

#### 関東支部会

三翠化学会関東支部会が  
永年の冬眠から、やっと目  
を覚まし、本年二月に賑や  
かに再起を果たしました。  
その後二か月に一度、場所  
は御徒町のへぎそば処越後  
屋に、辻野支部長を中心  
に十名前後の役員が今後の会  
の活性化を話し合っており  
ました。たまたま、梅林三  
重大学名誉教授がNPOの  
求めで、東京都内で講演を  
されるニュースが入ってき  
ました。



その後、近くのメルバル  
ク東京、四階白鳥の間に席  
を移動し、会員二十名が先  
生を囲んで懇親会が行われ  
ました。大20回藤野氏の司  
会のもと、大11回の辻野  
支部長の挨拶をかわきり  
に大8回の田中氏の乾杯  
の音頭で歓談・スピーチ  
が繰り広げられました。  
大30回の北川氏の指導  
で、正調三翠応援歌もあり、  
今後恒例になりました。  
な雰囲気も漂いました。  
大12回の亀山氏の閉会挨拶  
で、名残り尽きない会  
も終了となりました。  
以上、三翠化学会関東  
支部会の活動をご報告申  
上げます。

#### 関西支部会

第七回総会は秋晴れの  
一月五日(土)一〇時三〇分  
からホテルクライトン新大阪  
で、福田三翠化学会会長、熊澤  
三重大学名誉教授、談話会  
講師 鋤柄修氏(大12)、岩佐  
東海支部会員(大12)並びに  
支部会員、総勢二十九名の  
出席のもとで開催された。  
(1)総会(10時30分～11時15  
分)支部長挨拶 福田会  
長挨拶の後、議長に岩尾  
氏(大10)を選び、会務  
報告、会計、監査報告、  
支部規約の一部改正、  
支部活動の活性化の  
ため、副支部長の増員  
(五名以内)と顧問制の  
新設、並びに役員改  
選が議され原案が承認  
された。役員改選の結果  
は下記の通りです。  
最後に力強い小林新支  
部長(大12)の挨拶が  
あった。なお、支部長  
挨拶の中で、平成一七  
年度支部運営協力賞は  
五十五名(二七〇口)、



組んで三十五年」と題す  
る講演をいただいた。巧  
みな話し振りで、実業家  
としてさらにオールジャ  
パンレベルで活躍されて  
いる同氏の三十五年にわ  
たる貴重な体験を披露さ  
れ、深い感銘を受けた。  
(3)記念撮影(12時10分～20  
分)一堂に会し記念撮  
影。カメラマンは岩  
佐氏(大12)並びに  
内田氏(大15)。  
(4)懇親会(12時30分～  
14時30分)熊澤名誉  
教授にご挨拶をいた  
だいた後、遠路広島  
から出席された里村  
氏(専一)による乾  
杯の音頭で始まっ  
た。学生時代に立ち  
返った支部会員のス  
ピーチを織り込み若  
手を中心におおいに盛  
り上がった。お開き  
は三翠応援歌(リ)

#### 三重県支部会

伊勢神宮式年遷宮のご用  
材をお木曳き行事に参加し  
て運びませんか。  
一三〇〇年の昔から二十  
年に一度行われる式年遷  
宮、平成二五年の第六十二  
回伊勢神宮式年遷宮のご用  
材を神領民が「お木曳き」  
という伝統行事(無形民族  
文化財)にて運びます。「お  
木曳き」には、「一日神領  
民」として参加すること  
ができます。



『お木曳き』申込み要項  
日時：平成19年5月20日(日)  
9時目標。集合場所等詳し  
くは参加者に御遷宮対策事  
務局と調整後連絡します。  
参加費：10,000円(1名)程度  
参加費の内8,000円(未定)  
は事務局への参加費で揃い  
の法被、記念品代です。  
申込み：平成18年10月末日まで  
に、はがきにてお申し込み  
ください。「お木曳き」参加  
とし、参加者全員の住所・  
氏名・性別・年齢をお知らせ  
ください。  
宛先：〒514-1125 三重県津市久  
居元町2283 池山洋久宛

#### 関西支部会 第8回総会 予告

日時：平成18年10月29日(日)11時30分から  
会場：ホテルクライトン新大阪  
TEL 06(6885)1211  
〒532-0011 大阪市淀川区西中島2-13-32  
交通：地下鉄御堂筋線西中島南方駅または阪急電  
鉄南方駅下車、阪急線沿い西へ徒歩5分  
会費：男子5,000円、女子4,000円  
内容：(1)総会：①会務報告、②会計報告  
(2)談話会：【講師】西田律夫氏(大20、京  
都大学大学院農学研究科教授)【お話し】昆虫  
の超能力に学ぶ化学(予定)  
(3)記念写真、(4)懇親会  
来賓：生物資源学部長 天野秀臣氏  
三翠化学会会長 福田 映氏  
旧交を温めるまたとない機会です。友人、先輩、  
後輩には後日詳細をお知らせ致します。支部会員各  
位には後日詳細をお知らせ致します。支部会員以  
外の方のご参加も大歓迎です。参加ご希望の方は  
予め支部長または支部幹事等にお知らせください。

ダレは佐野氏(専一)で  
締めくくった。  
支部総会の出席者は五  
十名ラインが望ましいので  
すが、ここ二三年は三十  
名前後と低迷しています。  
次回こそは貴方もぜひ出  
席ください。  
●平成17・18年度支部役員  
支部長 小林鉦一(大12)  
副支部長 嶋林幸英(専一、  
大2)、谷中国昭(大13)、  
関小田弘(大25)、小川悦  
代(大30)  
監査 細見光夫(大4)  
庶務幹事 内田勝啓(大15)  
会計幹事 堀英一(大28)  
幹事 17名  
(卒業年次、氏名は省略)

新企画!

思い出の一枚 あのころ君は着かった

《懐かしい写真、随時受け付けています》



昭和54年当時の学内の様子（共通教育前から図書館を見る）当時は、学内に自動車の乗り入れができていた。写っているブルーボードは、大28回の都築さんの車です。下に現在の同じ場所の写真と並べてみました。木が茂り、図書館をみることはできません。松の木は当時のままです。【提供：荻田修一（大30）】



昭和29年頃の化学実験室の小休止風景です。【提供：田中秀志（大3）前列右から4番目】



伝統のクラス対抗駅伝 昭和30年農芸化学4年生チーム【提供：藪本義雄（大4）】

社会貢献度が重要な評価項目に

大学法人化後、三年目をむかえ

大学のホームページで農学と水産学が学べ、煙突型で博士後期課程まで教育研究ができる学府は全国で三重だけとなりました。法人化後三年目を向かえ、大学は生き残りをかけて体質の改善を進めてきました。また、文部科学省は、大学教育の改革を競争原理に基づいて進めようとして、二年度に一部一学科から資源循環学科、共生環境学科、生物圏生命学科の三学科体制に改組し、四年後には博士前期課程（修士）を改組し専攻名を学科名と同じにしました。さらに二年が過ぎ博士後期課程も改組しました。その結果、学部と大学院は学成が同じとなりました。たとえ小さくても研究・調査船を有し、一つの建物の中

（久松眞）

今、私は

袴田 佳宏（大34）

早いもので、三重大を卒業して九十八年の月日が流れました。この原稿を書き始めて松嶋欽一先生、嶋田協先生、粟冠和郎先生との研究室での数々の思い出が、スナップ写真のように脳裏に甦ってきます。

三重大を修了後、花王株式会社に入社して、生物科学研究所に配属になり、この十八年間、洗剤用酵素の開発に従事してまいりました。この間、苦労はありましたが、結果的には、衣料用洗剤「アタック」にアルカリプロテアーゼ及びアルカリセルラーゼを配合することができ、花王様にも恩返しできたものと考えています。花王では学生時代と同じくセルラーゼの研究に携わることができ、また、理解ある上司にも恵まれ、二〇〇〇年には博士（工学）号を取得

することができました。これも大学時代に先生方のご指導があったからこそだと思っています。二〇〇六年三月に花王を退職し、同年四月より金沢工業大学環境建築学部バイオ化学科の助教授として赴任しました。本学科は設立三年目の新しい学科です。現在、教員をしながら、二〇〇四年に設立された金沢工大付属機関のゲノム生物工学研究所に研究員として勤務しています。研究所は大学から約十キロ離れた所に位置しており、窓からは壮大な霊峰白山の姿を拝むことができます。研究所は日本の大学の中でも有数の設備を誇り、麹菌の研究を主として行っていますが、小生は、納豆菌に関する研究を行おうと準備中です。金沢工大では講座制が無いので、一年目の小



生の研究室にはまだ学生は居らず、少し寂しいですが来年からは忙しくなりそうです。再来年にはバイオ化学科としても小生の研究室としても、始めての卒業生が社会に出ることになります。金沢工大バイオ化学科の名前を見かけましたら、三重大卒業生所縁の学生でもありますので、その際は宜しくお願い致します。また、今後、学生指導に関しては不慣れですので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

化4

クラス会レポート...

信州白馬で

平成十七年十月十一日から二泊三日の信州行。阿下喜からバスを仕立てて、名古屋で中京・関西勢を迎え、関東勢とは長野豊科で合流して白馬に向かう。

途中で穂高の美術館に立ち寄り、北の湖の赤富士や鶴太郎の書に感心、白馬に入ってまず温泉場で、湧き出る湯量の豊富、川へかけ流しの湯の温泉につかり、貸切のペンションに入る。夫婦五組を含めた男十一名女六名の十七名である。翌日は梅池自然園を目指してゴンドラリフトとロープウェイを乗り継ぎ、標高六百米からいっきに千九百

まで登り、真盛りの紅葉を眼下に視て錦秋を満喫、自然園の湿原を散策して流れる白雲の切れ目に白馬三山を展望、まだ冠雪はみられないが、来春是非体力をととのえ再訪を望んだ。

わたった白馬三山と、その右に戸隠の連山を遠望、大町、名古屋、阿下喜を経て帰着した。（幹事・梅田、田井中）

